

研究・調査報告書

報告書番号	担当
523	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption is inversely associated with risk and severity of rheumatoid arthritis. アルコール消費とリウマチ性関節炎の危険性や重症度とは逆相関する	
執筆者	
Maxwell JR, Gowers IR, Moore DJ, Wilson AG.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Rheumatology (Oxford). 49(11):2140-2146 (2010)	
キーワード	
アルコール、リウマチ性関節炎、重症度、感受性、環境	
要旨	
<p>目的： リウマチ性関節炎 (RA) は複雑な慢性疾患である。疾病の不均質な特徴のため、その原因として関連する遺伝的要因と環境要因との関係は良く分かっていない。最近の研究では、喫煙と RA との関係が示されている。一方、アルコール消費と RA との関係を調べている研究は多くはないが、報告ではアルコールの RA に対する防御効果が示唆されている。アルコール消費が RA の罹患率を低下させる報告はあるが、RA の重症度とアルコールとの関係については良く分かっていない。この研究ではアルコール消費の頻度と RA の罹患率および重症度との関連について検討した。</p> <p>方法： イギリス白人種の RA 患者と対照者での大規模コホート研究である。アルコール消費の頻度は自記式質問票で患者あるいは対照者が記録した。RA の重症度は臨床症状、放射線学的検討、質問票によって評価した。RA 罹患のオッズ比 (OR) は、年齢、性別、喫煙状態で補正した後、アルコール消費を基にして計算した。全ての RA 重症度測定値の中央値をアルコール消費の頻度を基にして求め、相関性の確認にはノンパラメトリック傾向検定を用いた。潜在的な交絡因子の補正には負の 2 項分布回帰モデルを使った。</p> <p>結果： 研究はびらん性 RA の 873 名の患者と 1,004 名の健常対照者で行われた。RA の罹患危険率はアルコール消費の頻度に従って低下した；アルコールを 1 月に 10 日以上消費する被験者と比較して非飲酒者の RA に対する OR は 4.17 であった ($P<0.0001$)。RA の重症度 (C 反応性蛋白質、疾患活動指標 DAS28、痛覚視覚的評価スケール VAS、改訂 HAQ、改訂 Larsen スコア) はアルコール消費の頻度の増加と逆相関していた ($P<0.0001$)。多変量回帰分析モデルで潜在的交絡因子を補正した後でも、アルコール消費頻度と放射線学のおよび改訂 HAQ で評価した RA 重症度とは逆相関が認められた。</p> <p>結論： 本研究にはいくつかの疫学的制限はあるものの、結果はアルコール消費はその消費量に依存して RA の罹患危険性と重症度の両方を低下させることを示唆している。また、本研究は RA の重症度とアルコール摂取頻度との逆相関を示した初めてのものである。</p>	